

# 第4章 ゾーン別構想

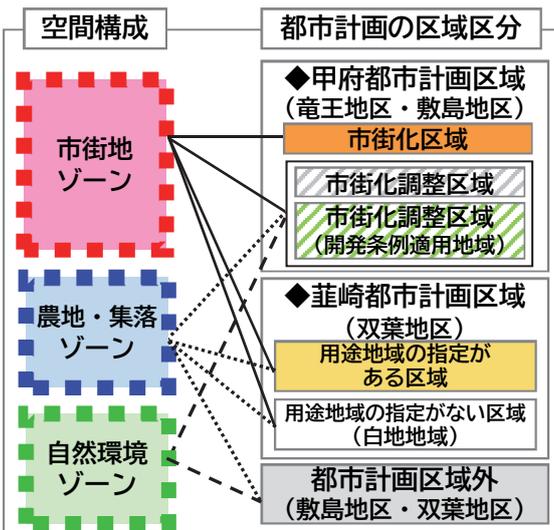
---

# 第4章 ゾーン別構想

## 4-1 ゾーン区分の考え方

「全体構想」を踏まえ、より詳細な視点から本市のまちづくりの基本方針を示すにあたり、「都市づくりの方向性（将来都市構造）」における『空間構成』で分類したゾーニングを基に、次のとおり市域を3つのゾーンに分類します。

ゾーン名	主な該当範囲
市街地ゾーン	都市拠点、地域拠点等を中心とする 既成市街地の範囲
農地・集落ゾーン	主として農用地区域及び 集落地を中心とする既成市街地外の範囲
自然環境ゾーン	都市計画区域外の範囲



## 4-2 市街地ゾーンにおけるまちづくりの実現に向けて

市街地ゾーンは、本市の南部に位置し、北部に自然環境ゾーンの山々がそびえ立ち、限られた平地に形成された市街地は、主に住宅地となっています。

本市が将来にわたり甲府盆地をリードする持続可能（サステイナブル）な都市であり続けるため、脱炭素型まちづくりを目指した集約型都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク）の形成など、ゆとりや安らぎ、豊かな自然環境などを感じられる良好な居住環境の創出を図るとともに、安心安全が感じられる日常生活の実現を図ります。

また、地域コミュニティの維持・増進を図りながら、相互に助け合い、賑わいと活力あるまちづくりを進めていくことで、本市の将来を牽引する中心地区として、誰もが居住地としての良さを感じるまちの実現を図ります。

### 関連するSDGsの目標



### (1) まちづくりのテーマ・目標

## みんなで創り 築く 快適なまち

### 都市づくりの目標

■日常生活の中で豊かな自然環境が感じられるまちづくり

■相互に助け合い、賑わいと活力のあるまちづくり

■誰もが住み良さと安らぎを感じるまちづくり

■未来へ引き継ぐまちづくり

### 市街地ゾーンの目標

■環境への負荷を軽減し『ゼロカーボン』を目指したまちづくりの形成を図ります。

■拠点内に都市機能の集約化を進め、地域・拠点間の連携を強化した「脱炭素型まちづくり『コンパクト・プラス・ネットワーク』の形成」を図ります。

■激甚災害や水害など、自然災害への対策を講じた「誰もが安心安全に生活できる空間の形成」を図ります。

■子どもから高齢者まで、安心して生活できる交通安全に配慮した「道路交通網と歩行空間の形成」を図ります。

■日常生活空間として、農地と集落の調和により、魅力的で「誰もが住み続けたいと感じる居住空間の形成」を図ります。

■公民館やその他の公共公益施設等を活用し、「人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成」を図ります。

■現在の様々な産業機能を活かし、「地域の活力を支える産業空間の形成」を図ります。

■地場産業や歴史・文化資産を活かし、「様々な交流や賑わいのある空間の形成」を図ります。

■身近な緑などの自然環境及び歴史・文化資産の保全や活用により、「誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の形成」を図ります。

# 市街地ゾーンにおけるまちづくり構想図



凡 例		
● 市役所	■ 住居系土地利用(市街地)	— 広域幹線道路(整備済)
■ 公民館	■ 住居系土地利用(集落地)	⋯ 広域幹線道路(未整備)
● 病院	■ 商業・業務系土地利用	— 地域内幹線道路(整備済)
● 学校	■ 沿道サービス施設・商業系土地利用	⋯ 地域内幹線道路(未整備)
● 警察署・消防署	■ 工業系土地利用	— 補助幹線道路(整備済)
■ 公園・緑地	■ 田園集落系土地利用	⋯ 補助幹線道路(未整備)
● 都市拠点	■ 優良農地	— 市道
● 地域拠点	— 河川	— 市境
● 準地域拠点		⋯ 都市計画区域界
● 産業拠点		■ ゾーン界

## (2) まちづくりの構想の設定

### 【「ゼロカーボン」を目指したまちづくりの形成】

- 市民と行政が協働しながら「ゼロカーボン」を目指したまちづくりと、良好な居住環境を維持するため、必要に応じて規制誘導方策の適用について検討します。
- 市街地内において、身近な緑を感じる空間を形成し、「ゼロカーボン」への取組として、地域住民の理解と相互協力のもと、生け垣化や花壇の設置など宅地内の緑化等による良好な街並み景観を推奨するほか、社寺林や屋敷林の維持管理及び保全を促進します。
- 市街地内において農地や緑地と共存する地区においては、グリーンインフラである緑地空間の保全を基本としながら、「ゼロカーボン」を意識した、人と緑が共存する良好な居住環境を維持するよう、秩序ある土地利用の規制誘導方策の適用を検討します。
- 住宅のエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量低減の取組として、省エネルギー性能を向上させる設備の普及を促進します。

### 【脱炭素型まちづくり「コンパクト・プラス・ネットワーク」の形成】

- 本市における都市拠点や地域拠点などへの都市機能の集約化を促進し、拠点間をつなぐ公共交通網の拡充などにより、コンパクトなまちづくりを進めていきます。
- 主要な公共公益施設周辺において、道路改良や公共交通の充実、快適性の向上を目的としたバリアフリー化などを図り、誰もが利用しやすい施設として、利便性と安全性の向上に努めます。
- ゾーン内の公民館、福祉・子育てや温泉などの公共公益施設については、居住地における交流・コミュニティの維持・増進を図るため、既存施設の機能の充実や、施設利用の利便性・効率性の向上に考慮しながら、必要に応じて施設の統廃合や複合化を検討するとともに、太陽光などの再生可能エネルギーの活用についても検討します。
- 住宅が密集している地区や複雑な街区となっている地区については、オープンスペースや道路空間を確保するなど良好な居住環境を創出するために、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。

### 《地区別の主な方針》

#### (竜王地区)

- 本市の都市拠点として、市内外の人々にとって活気あふれる、より魅力的な都市とするため、商業施設や業務施設の立地誘導を促進します。各種の都市機能を複合的に配置・集積を図り、回遊性を創出するとともに交流を促す空間形成を図ります。

#### (敷島地区)

- 地域における生活や活動に必要な商業、コミュニティ形成の場などの機能を集積し、市北部地域のコミュニティ拠点とのさらなる連携の強化を進めます。
- 「甲斐市役所（敷島庁舎）周辺」は、敷島公民館や敷島図書館など多くの公共公益施設が集積する敷島地区の地域拠点であり、今後とも、地域住民の交流・コミュニティの維持・増進を図るため、既存施設の適正な管理運営と機能の充実にも努めます。

## (双葉地区)

- 市内外から人の流れを呼び込み、地域住民に限定されないコミュニティの維持・増進を図るため、「塩崎駅周辺」や国道 20 号沿道の商業空間を一体として地域拠点を形成し、交流の場の充実を図ります。



双葉地区大型商業施設

### 【誰もが安心安全に生活できる空間の形成】

- 各地区における指定避難所について、避難所としての機能を確保するとともに防災資機材及び非常用食糧備蓄を進めます。併せて、指定避難所周辺の必要な沿道整備を進めます。
- 緊急輸送道路や主要な避難路については、円滑な救援物資の輸送や各避難地・避難所までの避難・誘導を行うため、必要な道路の整備・改善や沿道建築物の不燃化・耐震化等を進めます。

### 《地区別の主な方針》

#### (竜王地区)

- (主)甲斐中央線、(都)田富町敷島線、(市)竜王駅南口線の緊急輸送道路については、円滑な救援物資の輸送や各避難地・避難所までの避難・誘導を行うため、歩行空間の確保などの必要な道路整備とともに、無電柱化の検討など防災面での強化を図ります。

### 【道路交通網と歩行空間の形成】

- 高齢社会への対応として、生活動線を勘案しながら、生活道路網における歩行空間の確保やバリアフリー化などを進めるとともに、高齢者をはじめとした誰もが利用しやすい移動手段を確保するため、需要に応じた適切な公共交通の体系を検討します。
- 本市の市街地から開業予定のリニア中央新幹線山梨県駅へのアクセス道路の整備を検討するとともに、近隣自治体との連携により広域的な視点から、公共交通機関の利便性の向上を図ります。
- 学校周辺等については、通学路の安全確保のため、歩行空間の確保を図るために必要な整備・改善などの安全対策を進めます。

- そのほか、主要な道路については、関係機関との調整や地域住民の理解と協力のもとで、沿道と一体となった整備を行い、歩行空間の確保を図るなど、安心安全な居住環境の形成を図ります。

### 《地区別の主な方針》

#### （竜王地区）

- 竜王駅周辺は、誰もが利用しやすい商業・業務空間として、バリアフリーを考慮した歩行空間を確保するとともに、後背地における良好な生活環境の維持や建物用途の混在、危険箇所を防止するよう、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。



安全確保のため整備されたグリーンベルト

### 【誰もが住み続けたいと感じる居住空間の形成】

- 良好な居住環境を形成するため、既存ストックの適切な維持管理や必要となる都市基盤の整備・改善を進めるとともに、必要に応じて地区計画や特定用途制限地域などの適用について検討します。
- 市街地内の農地をはじめとする低未利用地の宅地化にあたっては、必要に応じて、都市内緑化機能や雨水貯水浸透機能などの利活用について関係機関との調整を行います。

### 《地区別の主な方針》

#### （竜王地区）

- 本市の都市拠点として、駅周辺整備事業が完了した「竜王駅周辺」は、交通結節点として利便性が高く、歩いて暮らせる環境にもやさしいまちづくりを実現するため、都市基盤の適切な維持管理とともに、市内外の人々の交流を促す空間として、本市の玄関口にふさわしい土地利用を促進し、さらなる魅力の向上を図ります。

#### （敷島地区）

- 敷島地区の地域拠点である「甲斐市役所（敷島庁舎）周辺」は、市北部地域の自然環境ゾーンへの玄関口となる、既存集落を結ぶ交通結節点として、公共交通の充実を図ります。

## (双葉地区)

- 「塩崎駅周辺」は、本市西部の交通結節点として、市内外の人々の交流を促す空間を形成するよう、交通結節点機能の向上を図ります。さらに、駅周辺から国道 20 号沿道に集積する行政施設や沿道施設並びに「大型商業施設周辺」との連携強化を図るとともに、さらなる出店、誘致を促すため、必要に応じて地区計画や特定用途制限地域などの適用を検討しながら、利便性と魅力のある双葉地区の地域拠点を形成します。
- 準地域拠点である、「双葉響が丘周辺」は、交通条件による生活利便性の高い居住環境を維持するとともに、良好な居住環境を維持するため、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。

## 【人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成】

- ゾーン内に形成される、公民館、住宅地や既存集落地の地域集会施設の周辺を「コミュニティ拠点」として位置づけ、「つどい」、「かたらい」などの空間として交流を促し、コミュニティの維持・増進を図るとともに、既存施設の機能充実を図ります。
- 既存の公園・緑地については、交流や憩いの場としての活用を促すため、地域住民や利用者等のニーズに応じ、高齢者等に配慮したバリアフリー化や防災機能の拡充についても検討するとともに、協働の観点から市民、団体などによる公園の維持管理を進めていきます。また、ニーズに応じた新規整備などを検討します。

## 《地区別の主な方針》

### (竜王地区)

- 「竜王駅周辺」は、本市の玄関口として、また、「甲斐市役所(竜王庁舎)周辺」については、多くの公共公益施設が立地することから、利便性・快適性を備えるとともに、地域住民と観光客双方の様々な交流・コミュニティ醸成を促し、本市の中心となる都市拠点を形成します。
- 旧山梨県緑化センター跡地を活用し、「幅広い世代が交流する賑わいと憩いの場の形成」、「緑に親しみ学習する拠点」として、「(仮称)篠原地区公園」の整備を進めていきます。

### (敷島地区)

- 荒川沿いについては、水辺に親しむ交流の場として、清流を身近に感じる河川空間の維持と活用を図ります。

## 【地域の活力を支える産業空間の形成】

- 国道 20 号、(主)甲府韮崎線、(主)甲府南アルプス線(アルプス通り)、(都)田富町敷島線、(市)三味堂村上線などの幹線道路の沿道については、自動車交通に対する利便性の高さを活かした沿道サービス施設、商業施設の維持・集積を図るほか、後背地における良好な生活環境の維持を図るために、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。
- 市街地内に介在する一団のまとまりある低未利用地については、近接する住宅地における生活環境の維持に配慮しながら、新たな産業空間としての利活用を検討します。

## 《地区別の主な方針》

## (竜王地区)

- 竜王駅東側(大下条地区の一部、名取地区の一部)の地域では、住宅地と小規模工場等が混在していることから、良好な居住環境と生産環境の維持と共存を図るために、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。
- 本市南部の市境周辺(西八幡地区、玉川地区)については、既存の工業施設の操業環境を維持するとともに、隣接する住宅地の居住環境と共存するよう対策を検討します。

## (双葉地区)

- 双葉地区の「大型商業施設周辺」にあっては、「塩崎駅周辺」や国道20号沿道商業空間の地域拠点として、市内外から人の流れを呼び込むことで地域の活性化を図ります。また、大型商業施設の集積や主要幹線道路沿線の立地ポテンシャルにより、二次的な施設等の進出が見込まれることから、土地利用の計画的な誘導と無秩序な開発を抑制するため、必要に応じて地区計画、特定用途制限地域などの適用について検討します。
- 双葉地区の地区拠点を構成する下今井農工団地、双葉地区拠点工業団地のエリア拡充を含めた新たな土地利用の展開について、引き続き、関係機関との協議を進めるとともに、企業誘致による市の産業活性化に向けた取組を推進します。



双葉地区工業拠点

## 【様々な交流や賑わいのある空間の形成】

□市街地内に所在する歴史的建造物などについては、本市の歴史や文化を未来へ伝えるかけがえない宝であることから、市外からの来訪者だけでなく、本市の子どもたちの貴重な教材として、引き続き適切な管理の下に保全を図るとともに、利活用を促進します。

□地域の住民活動による維持管理と活用を促し、支援することで市街地内に存在する本市の隠れた魅力を再発見し、その魅力を磨き、活かしたまちづくりを促します。

### 《地区別の主な方針》

#### （竜王地区）

■市街地内で貴重な緑を多く残す、旧山梨県緑化センター跡地を活用し、「幅広い世代が交流する賑わいと憩いの場の形成」、「緑に親しみ学習する拠点」となる「（仮称）篠原地区公園」の整備を進めます。

#### （双葉地区）

■「双葉スマートインターチェンジ」のフルインターチェンジ化による利用者増加や、大型商業施設への集客を活かし、周辺の観光施設などへの誘導を図る仕組みを検討します。

## 【誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の形成】

□本市の魅力的な特徴の一つである富士山・南アルプス・八ヶ岳をはじめとする山並みや日本遺産として認定された景勝地「御嶽昇仙峡」、釜無川・荒川・貢川への眺望を保全・活用し、本市をより魅力的なものとするため、「甲斐市景観条例」、「甲斐市景観計画」に基づいた眺望景観の保全と活用を図ります。また、市街地内からの眺望を確保するため、必要に応じて建物等の高さを制限する地区計画や高度地区指定などの適用について検討します。

□市街地内に存在する農地については、日常生活において身近に感じる緑空間として、また、防災機能を兼ね備えた貴重なオープンスペースとして、農地所有者の協力のもと、保全に努めます。

### 《地区別の主な方針》

#### （竜王地区）

■（主）甲府南アルプス線（アルプス通り）などの沿道型商業施設が立地する幹線道路沿道については、背景となる南アルプスなど、周辺の山並みに配慮した良好な沿道景観形成を景観計画に基づき誘導します。また、必要に応じて沿道建物の高さ制限や色彩、形態意匠の統一化など、必要に応じて、地区計画などの適用について検討します。

■本市の玄関口となる竜王駅南北自由通路は、富士山・南アルプス・八ヶ岳をはじめとする山並みへの眺望が良好であることから、視点場として保全・活用します。また、世界的建築家の安藤忠雄先生の設計による、水晶の結晶や信玄堤の聖牛をイメージした外観の高いデザイン性を有する竜王駅舎は、都市のシンボルであることから駅の有効活用を図りながら、市内外に向けてその魅力を発信していきます。

- 「賑わいのある都市空間」を創出するため、(都)田富町敷島線などの地域内幹線道路については、デザインにおいて本市の特色を反映したストリートファニチャーやシンボルツリー等の設置、そして、背景となる山並みにも配慮した沿道景観の形成を推進します。

#### (敷島地区)

- 山々や河川への眺望のほかに、田園景観も広がっており、周辺の山々の紅葉や黄金に輝く千枚田とも呼ばれる棚田などは、市の重要な観光資源のため、農家と市民が連携・協働して四季折々の景観を維持保全していくために必要な情報の収集・発信を行って活動の発展を図ります。

#### (双葉地区)

- 集落景観をはじめとして、住宅地が立ち並ぶ市街地景観や斜面地景観、商業施設が立ち並ぶ沿道景観などの魅力あふれる景観を今後も維持していきます。



竜王駅南北自由通路から望む山並み

### 4-3 農地・集落ゾーンにおけるまちづくりの実現に向けて

農地・集落ゾーンは、主に本市の西部や中山間地に位置し、豊かな優良農地が広がるとともに、その農地に囲まれて宅地が立地するなどの集落地が形成され、魅力的な田園環境が醸し出されています。

今後のまちづくりにおいては、優良農地は、食料生産機能や雨水貯留浸透機能、景観形成機能など様々な機能が発揮されるように適正な保全を図ります。また、宅地においては、良好な生活環境の向上に努めるとともに、無秩序な市街地の拡散を抑制するため、適正な土地利用の規制誘導を図ります。

また、「ゼロカーボン」に向けた脱炭素型のまちづくりを促進することが求められていることから、「ゼロカーボンシティ」を目指す環境にやさしいまちづくりのモデル事業の推進を図るため、木質バイオマスを活用した「甲斐双葉発電所」の整備予定地と、「新山梨環状道路（北部区間）」の整備に伴って設置される「(仮称) 甲斐インターチェンジ」の周辺エリアを「ゼロカーボンモデル事業取組拠点」とします。

このエリアでは、先進的な環境にやさしいまちづくりとともに、都市の快適性や利便性を活かしながら、様々な分野からなる産業が融合し、デジタルインフラを活用した新たな価値を創出する未来都市を目指した地域とします。

#### 関連するSDGsの目標



#### (1) まちづくりのテーマ・目標

## 自然と人が交流する ゆとりのまち

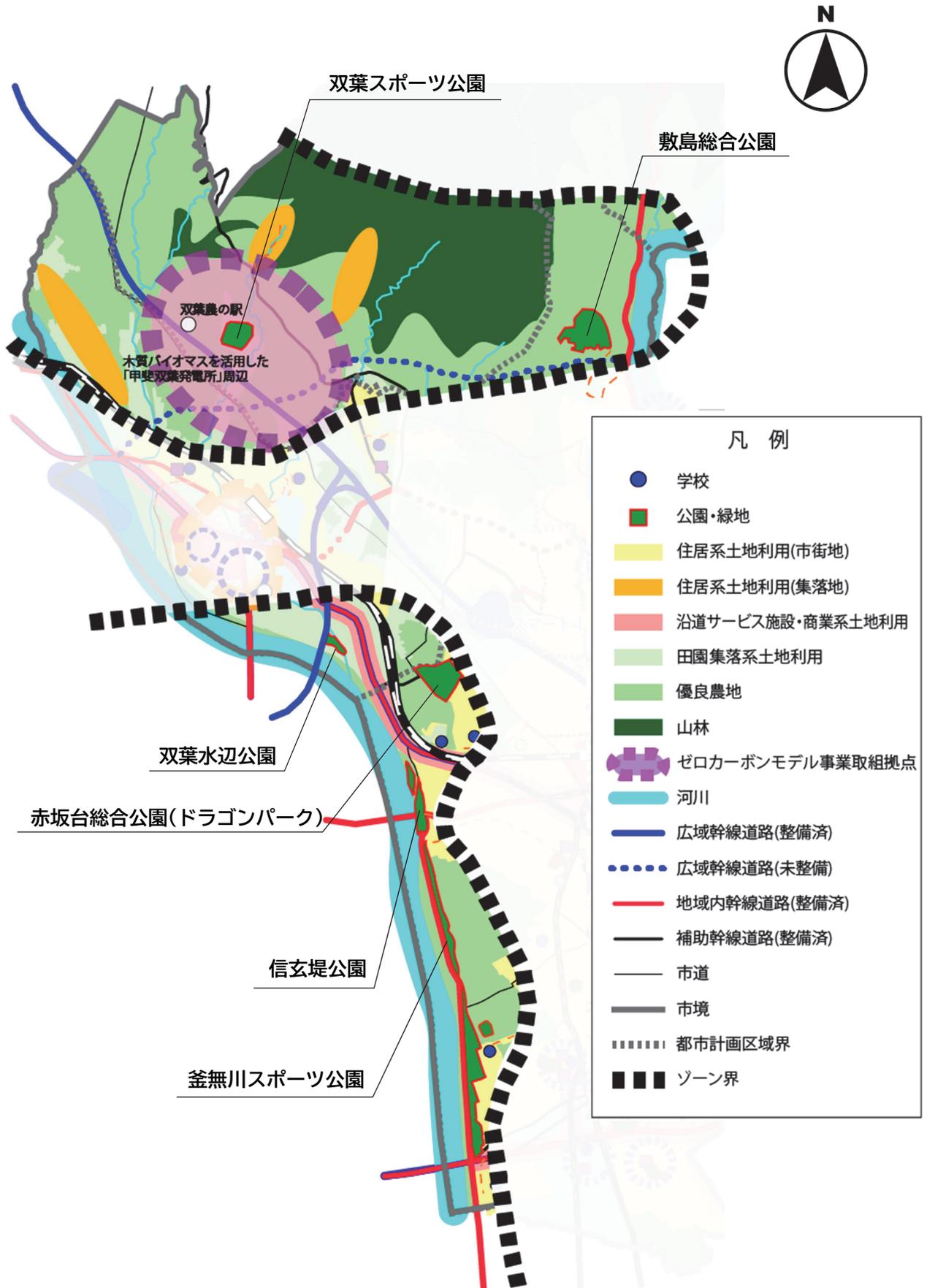
#### 都市づくりの目標

- 日常生活の中で豊かな自然環境が感じられるまちづくり
- 相互に助け合い、賑わいと活力のあるまちづくり
- 誰もが住み良さと安らぎを感じるまちづくり
- 未来へ引き継ぐまちづくり

#### 農地・集落ゾーンの目標

- 木質バイオマスを活用した「甲斐双葉発電所」の整備を進め、「『ゼロカーボン』を目指した取組モデル拠点の形成」を図ります。
- 広域交通網の拡充に伴う、新たな土地利用を見据えた「人口や都市機能の無秩序な拡散を抑制した土地利用の形成」を図ります。
- 日常生活空間として、農地と集落の調和により、魅力的で「誰もが住み続けたいと感じる居住空間の形成」を図ります。
- 公民館やその他の公共施設等を活用し、「人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成」を図ります。
- 現在の様々な産業機能の維持・向上、新たな産業施設を集積し、「地域の活力を支える産業空間の形成」を図ります。
- 交通安全や災害対策を充実させ、「誰もが安心安全に生活できる空間の形成」を図ります。
- 広大な農地の恵みや歴史・文化資産を活かし、「様々な交流や賑わいのある空間の形成」を図ります。
- 山林や河川などの自然環境及び歴史・文化資産の保全や活用により、「誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の形成」を図ります。

# 農地・集落ゾーンにおけるまちづくり構想図



序章 都市計画マスタープランについて

第1章 都市の課題

第2章 都市づくりの目標

第3章 全体構想

第4章 ゾーン別構想

第5章 実現化方策

## (2) まちづくりの構想の設定

### 【「ゼロカーボン」を目指した取組モデル拠点の形成】

- 双葉スポーツ公園周辺については、木質バイオマスを活用した「甲斐双葉発電所」の整備を進め、周辺に立地する公共公益施設や農業振興事業と連携し、「ゼロカーボンシティ」に向けた取組を推進します。
- ゾーン内に立地する温泉などの公共公益施設については、居住地における交流・コミュニティの維持・増進を図るため、既存施設の機能の充実や、施設利用の利便性・効率性の向上に考慮しながら、必要に応じて施設の統廃合や複合化を検討するとともに、太陽光などの再生可能エネルギーの活用についても検討します。
- 高齢社会への対応として、生活動線を勘案しながら、生活道路網における歩行空間の確保やバリアフリー化などを進めるとともに、高齢者をはじめとした誰もが利用しやすい移動手段を確保するため、需要に応じた適切な公共交通の体系を検討しながら、「ゼロカーボンシティ」に向けた取組を推進します。
- 住宅のエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量低減の取組として、省エネルギー性能を向上させる設備の普及を促進します。



「甲斐双葉発電所」周辺に立地する公共公益施設

### 【人口や都市機能の無秩序な拡散を抑制した土地利用の形成】

- 木質バイオマスを活用した「甲斐双葉発電所」を中心とするゼロカーボンモデル事業取組拠点では、立地や将来交通の利便性を考慮した、工業系、商業・業務系土地利用による産業施設の集積を図るとともに、市の新たな玄関口となるインターチェンジ施設を活用し、観光客や移住、二地域居住者の増加につながる都市的土地利用を検討します。
- 良好な自然環境を有する土地の保全など、秩序ある都市的土地利用の形成では、将来的な都市計画区域の拡大や、都市計画区域外へ拡大される無秩序な宅地化を抑制するため、土地利用の規制誘導方策を示した都市計画制度の適用について検討します。

## 【誰もが住み続けたいと感じる居住空間の形成】

- 点在する各集落については、公共交通などによる都市拠点や地域拠点、主要な都市機能施設との連携ネットワークを確立します。また、集落地内においては、公民館などの生活関連施設を中心としたコミュニティ拠点を形成していきます。
- 農地や周囲の里山などと共存する集落地においては、既存ストックを活かしながら自然環境と接する居住環境や、これまで培われてきた地域の文化やコミュニティを維持していきます。
- 優良農地等の一団の農地にあっては、グリーンインフラとして食料生産機能や雨水貯留浸透機能、景観形成機能など様々な機能を有することから、保全するために必要な方策について、関係機関との調整を行います。

## 【人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成】

- ゾーン内に形成される、公民館、住宅地や既存集落地の地域集会施設の周辺を「コミュニティ拠点」として位置づけ、「つどい」、「かたらい」などの空間として交流を促し、コミュニティの維持・増進を図るとともに、既存施設の機能充実を図ります。
- 主要な施設周辺において、道路改良や公共交通の充実、快適性の向上を目的としたバリアフリー化などを図り、誰もが利用しやすい施設として、利便性と安全性の向上に努めます。
- ゾーン内に点在する公園については、市内外の人の憩いや交流及びレクリエーションによるコミュニティの形成の場として、既存施設を有効に活用するとともに、ニーズに応じた新規整備などを検討します。
- 既存の公園・緑地については、交流の場としての活用を促すとともに、地域住民のニーズを踏まえた機能の向上と、住民等による管理運営への転換を図ります。
- 釜無川の信玄堤や双葉水辺公園については、公園内の緑化や護岸の維持管理を進めるとともに、清流が身近に感じられる河川空間の形成を図ります。



信玄堤公園

## 【地域の活力を支える産業空間の形成】

- 国道 20 号などの幹線道路の沿道については、自動車交通に対する利便性の高さを活かした沿道サービス施設・商業施設の維持・集積を図るほか、後背地における良好な生活環境の維持を図るために、必要に応じて地区計画などの適用について検討します。
- 「新山梨環状道路（北部区間）」の早期整備に向け、関係機関との調整を進めるとともに、道路の整備に併せて、必要となるインターチェンジへのアクセス道路の整備を進めます。
- 地元の農産物を販売する双葉農の駅などについては、「農のブランド化」や「地産地消」を推進する場としての活用を促すとともに、その機能の維持・向上を図ります。
- 農業分野の脱炭素化や気候変動の影響に対応するために必要な機械、設備等の整備、また、ロボット、人工知能（AI）、モノのインターネット化（IoT）等の先端技術を活用したスマート農業等を導入し、農業生産の効率化・低コスト化、農産物のブランド化・高品質化を推進します。
- 情報・IT系企業が集積する竜王赤坂ソフトパークの再集積化による工業系土地利用の有効利用を図るとともに、隣接する赤坂台総合公園(ドラゴンパーク)との一体的な空間を形成することによって、周辺住宅地の居住環境との共生にも配慮した、働きやすい業務空間を形成します。



賑わう双葉農の駅

### 【誰もが安心安全に生活できる空間の形成】

- 各地区における指定避難所について、避難所としての機能を確保するとともに防災資機材及び非常用食糧備蓄を進めます。併せて、指定避難所周辺の必要な沿道整備を進めます。
- 緊急輸送道路や主要な避難路については、円滑な救援物資の輸送や各避難地・避難所までの避難・誘導を行うため、必要な道路の整備・改善や沿道建築物の不燃化・耐震化等を進めます。
- 学校周辺等については、通学路の安全確保のため、歩行空間の確保を図るために必要な整備・改善などの安全対策を進めます。
- 主要な幹線道路については、関係機関との調整や地域住民の理解と協力のもとで、沿道と一体となった整備を行い、道路の危険箇所の改良により安全な歩行空間の確保を図るなど、安心安全な居住環境の形成を図ります。

### 【様々な交流や賑わいのある空間の形成】

- 信玄堤をはじめとする赤坂台総合公園(ドラゴンパーク)、ワイナリー施設などの観光施設については、交流による地域の活性化を目指し、施設相互の結びつきや利用形態を考慮し、施設の機能充実や施設間連携ネットワーク形成の構築について検討します。
- 歴史的建造物などについては、本市の歴史や文化を未来へ伝えるかけがえのない宝であることから、市外からの来訪者だけでなく、本市の子どもたちの貴重な教材として、引き続き適切な管理の下に保全を図るとともに、利活用を促進します。
- 地域の住民活動による維持管理と活用を促し、支援することで市街地内に存在する本市の隠れた魅力を再発見し、その魅力を磨き、活かしたまちづくりを促します。
- 地域の農産物を観光資源として活かすため、PR活動を促すとともに、施設設備の維持・増進により、市内外からの集客力の向上を図ります。

### 【誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の形成】

- 集落とその周辺に広がる田畑、そして、集落の背後に立地する里山が織り成す田園集落の景観を維持するため、「甲斐市景観条例」、「甲斐市景観計画」に基づいた眺望景観の保全と活用を図ります。
- 広大な農地は、本市の魅力的な特徴の一つである富士山・南アルプス・八ヶ岳をはじめとする山並みや釜無川への眺望と調和し、周辺の山林の紅葉や黄金に輝く田んぼなど四季折々の景観により、地域住民の日常生活に潤いや安らぎをもたらしてくれることから、「甲斐市景観計画」に基づく、眺望景観の保全と活用を図ります。また、優良農地の保全や不作付地の利活用など、農地等を維持保全していく方策について、関係機関との調整を行います。

## 4-4 自然環境ゾーンにおけるまちづくりの実現に向けて

自然環境ゾーンは、主に都市計画区域外に広がる豊かな山林と、秩父多摩甲斐国立公園の一つであり、日本遺産として認定された景勝地「御嶽昇仙峡」などの観光資源をはじめとする豊かな自然環境であふれています。これら自然環境は、グリーンインフラとしての機能を兼ね備え、都市の経済活動から排出された二酸化炭素の吸収や水源涵養のほか、景観形成など地球環境から居住環境に至るまで多様な機能を有し、本市の脱炭素に向けたまちづくりに大きく寄与することが期待されます。

今後のまちづくりにおいては、各地域のコミュニティ拠点を軸に機能の集積や、コミュニティの維持・増進を図るとともに、これら豊かな自然環境や歴史・文化資産を本市の魅力の一つと捉え、適切な維持管理が可能となるよう地域住民の意向等を把握しながら、景観眺望の保全を前提としつつ、地域の特性に応じた持続可能な土地利用のあり方について、地域住民とともに検討しながら「緑あふれる甲斐市」の実現を図ります。

### (1) まちづくりのテーマ・目標

#### 関連するSDGsの目標



## 自然の魅力あふれる やすらぎのまち

### 都市づくりの目標

■日常生活の中で豊かな自然環境が感じられるまちづくり

■相互に助け合い、賑わいと活力のあるまちづくり

■誰もが住み良さと安らぎを感じるまちづくり

■未来へ引き継ぐまちづくり

### 自然環境ゾーンの目標

■豊かな自然環境の保全・活用を進めることで「『ゼロカーボン』を目指したまちづくりの形成」に努めます。

■周辺の「自然環境と調和した居住空間の維持・形成」に努めます。

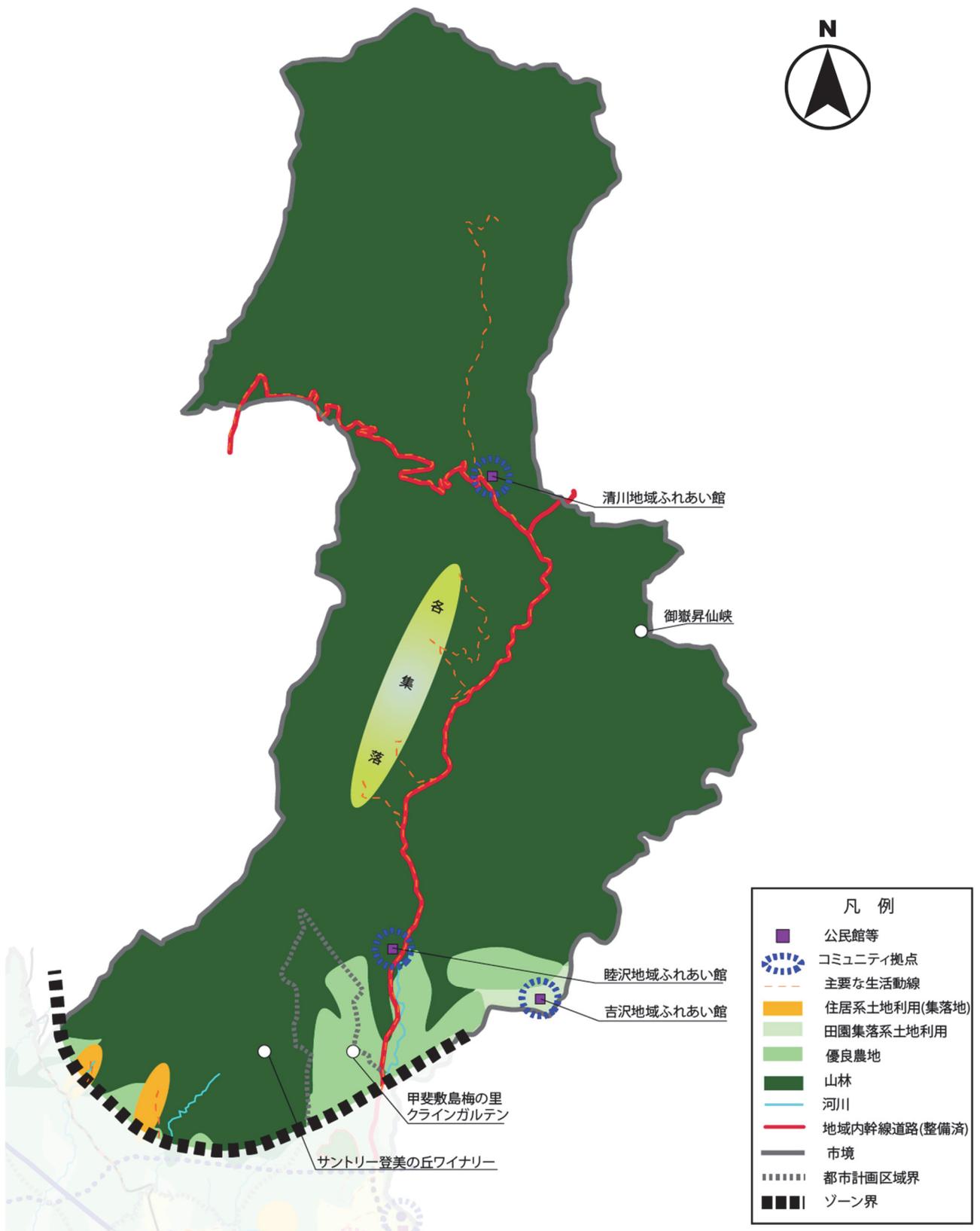
■ふれあい館などの公共公益施設を活用し、「人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成」に努めます。

■高低差などの地形条件を考慮し、交通安全や災害対策を充実させ、「誰もが安心安全を感じられる空間の形成」に努めます。

■「御嶽昇仙峡」をはじめとする豊かな自然環境を活かし、「様々な交流や賑わいのある空間の維持・形成」に努めます。

■山林などの自然環境及び歴史・文化資産の保全や活用により、「誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の維持・形成」に努めます。

# 自然環境ゾーンにおけるまちづくり構想図



序章 都市計画マスタープランについて

第1章 都市の課題

第2章 都市づくりの目標

第3章 全体構想

第4章 ゾーン別構想

第5章 実現化方策

## (2) まちづくりの構想の設定

### 【「ゼロカーボン」を目指したまちづくりの形成】

- グリーンインフラとして多様な機能を有する山々は、都市の経済活動から排出された大気中の二酸化炭素を吸収する特性を有していることから、適切な維持管理と再生が可能となるよう配慮するとともに、引き続き、保全と間伐材などの利活用を図りながら、「ゼロカーボンシティ」に向けた取組を推進します。
- 住宅のエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量低減の取組として、省エネルギー性能を向上させる設備の普及を促進します。

### 【自然環境と調和した居住空間の維持・形成】

- ゾーン内に点在する各集落については、清川地域ふれあい館、睦沢地域ふれあい館、吉沢地域ふれあい館などのコミュニティ拠点を中心に、自然環境との共存・共生を目指し、生活動線を勘案した生活道路網の確保や、危険箇所の改良を必要に応じて行います。
- 高齢者をはじめとした誰もが利用しやすい移動手段を確保するため、需要と費用対効果を検証しながら、適切な公共交通の体系を検討します。
- 優良農地等の一団の農地にあっては、食料生産機能や雨水貯留浸透機能、景観形成機能など様々な機能を有することから、農地等を維持保全していく方策について、関係機関との調整を行います。

### 【人々の憩いや触れ合いがあふれる交流の場の形成】

- 清川地域ふれあい館、睦沢地域ふれあい館、吉沢地域ふれあい館などの公益施設の周辺については、各々の居住地における交流・コミュニティの維持・増進を図ります。
- 主要な施設周辺において、道路改良や公共交通の充実、快適性の向上を目的としたバリアフリー化などを図り、誰もが利用しやすい施設として、利便性と安全性の向上に努めます。

### 【誰もが安心安全を感じられる空間の形成】

- (県)敷島竜王線、(主)甲府昇仙峡線、(主)韮崎昇仙峡線の緊急輸送道路や主要な避難路については、円滑な救援物資の輸送や各避難地・避難所までの避難・誘導を行うため、必要な道路の整備・改善や沿道建築物の不燃化・耐震化等を進めます。
- 指定避難所である清川地域ふれあい館、睦沢地域ふれあい館、吉沢地域ふれあい館については、避難所としての機能を確保するとともに、防災資機材及び非常用食糧の備蓄を進めます。併せて、指定避難所周辺に必要な沿道整備を進めます。
- 地域住民の防災意識の向上に努め、自主防災組織の育成や強化など、地域が主体となった自助・共助・公助による総合的な地域防災体制を推進します。

**【様々な交流や賑わいのある空間の維持・形成】**

- 「甲斐敷島梅の里クラインガルテン」については、農業の振興を通じて、本市の農村部と都市部の連携を促すとともに、他都市において生活を育む人々との交流も促すことから、既存施設の利活用に必要な施設整備について検討します。
- 中央自動車道、新山梨環状道路（北部区間）、茅ヶ岳東部広域農道などを活用し、市内外の観光施設を結ぶ周遊ルートを設定するなど、関係機関との調整を図ります。
- 日本遺産である「御嶽昇仙峡」、国内有数のワイナリー施設「サントリー登美の丘ワイナリー」などの観光施設については、交流による地域の活性化を目指し、施設相互の結び付きや利用形態を考慮し、施設の機能充実や施設間連携ネットワーク形成の構築について検討します。また、未来へ伝えるかけがえのないものであることから、市外からの来訪者だけでなく、本市の子どもたちの貴重な教材として、引き続き保全を図るとともに、利活用を促進します。



「サントリー登美の丘ワイナリー」のぶどう畑

## 【誰もが潤いや安らぎを感じ、誇りを持てる良好な景観の維持・形成】

- 茅ヶ岳、太刀岡山、羅漢寺山などは標高が高い位置に立地、「甲斐敷島梅の里ラインガルテン」などの中山間地については斜面地に立地し、それぞれの特性により、市街地などを眼下に見下ろす景観(俯瞰景)が望めることから、良好な眺望が望める視点場を整備するなど、この景観特性を有効活用し、さらなる魅力の向上に努めます。
- 一方で、山並みは、市街地から背景として望まれる視対象ともなることから、「甲斐市景観条例」、「甲斐市景観計画」に基づいた眺望景観の保全と活用を図りながら、引き続き、本市の魅力発信に努めます。



秋の棚田